

ZENRAKUREN

MEMBER'S INFORMATION

全酪連会報

若手後継者の本音／ 中島大貴さん

改正「個人情報保護法」につきまして、
ガイドラインが平成28年11月30日に公表され、
平成29年5月30日に全面施行されることが決定されました



酪農トピックス／「らくのうマザーズ家畜市場搾乳素牛セール」
開催される！（福岡）ほか

人事異動

日本酪農見て歩紀（三重県 四日市市ふれあい牧場）

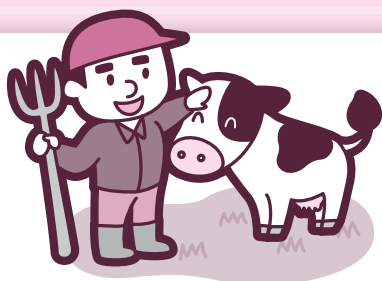


2

2017 February No.617



全国酪農業協同組合連合会



若手後継者の 本音 Vol.24

ホンネ

「酪農で“うれしいを”」

今回は、佐賀県嬉野市塩田町 (有)ナカシマファーム
の後継者中島大貴さんにお話を伺いました。

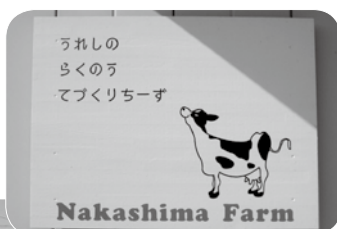


▲ 中島大貴さん

【経営概況】

所 属 佐賀県農業協同組合(金原壽秀代表理事組合長)
家族構成 大貴さん、両親、祖父母、妹二人
飼養頭数 搾乳牛50頭、育成牛40頭(子牛含む)

▶ チーズ工房看板



▲ 牛舎全景

今回訪問した(有)ナカシマファームは、日本三大美肌の湯の嬉野温泉や嬉野茶で知られる佐賀県嬉野市にあり、周囲を霧深い山々に囲まれ、澄んだ空気と清らかな水に恵まれた気温差の大きい盆地で、搾乳牛50頭、子牛・育成牛40頭を飼育する酪農を営んでいます。

(有)ナカシマファームでは、酪農教育ファームにも取り組むほか、2012年に自ら建てられたチーズ工房で自家製チーズの製造・販売も手掛けています。

家族構成は大貴さんと祖父母(建治さん、子さん)、父母(構治さん、千歳さん)、妹二人(千明さん、千晴さん)、猫(きなこ)一匹の8人家族です。現在祖父の建治さんが農地管理

を、父の構治さんが搾乳、繁殖管理を担当しています。大貴さんは搾乳、飼養管理全般、堆肥処理、チーズ開発、営業の担当で、牛舎管理は従業員の家永さんが担当しています。

(有)ナカシマファームが所属する佐賀県農業協同組合(金原壽秀代表理事組合長)は、生乳出荷戸数54戸(平成28年4月時点)、年間生乳生産量は16,510t(平成27年度実績)となっています。

就農までの経緯を教えてください

街づくりをしたいという思いから、もともとは建築家を志していました。酪農を継ぐ気はありませんでしたが、就職活動をする中で、建築家を目指すよりも酪農家になる方が自分の目指す街づくりの近道になるのではと考え、酪農家として生きることを決めました。

突然ですが酪農の一番のメリットは何だと思いますか？それは「牛乳が飲めること」です。当たり前のごとくのように思えますが、これを答えられる人は結構少ないです。酪農があるからこそ牛乳を飲むことができる、乳製品をいただくことができる、「酪農があつてうれしい」、そのことを伝えるため、自家製チーズの販売や酪農教育ファームなどにも取り組んでいます。そうしたことを通じ、自分の思う「酪農が密着した街づくり」を行うことができることにやりがいを感じております。

就農して苦労したことはありますか？

知識と技術を身に着けることです。現在は作業機械の運転から人工授精まで一通り自分でこなしていますが、就農当時はもとと建築家を目指していたこともあり、酪農家として必要な知識も少なく、ほぼゼロからのスタートでした。また、年齢の近い酪農家も少なく先代のアドバイスや自分で勉強する毎日でした。しかし、地域の仲間に恵まれ、堆肥処理などの面で助けてもらうなど、色々な人の温かさに触れることができました。そのときは地域のなかで酪農をやっていくことの大切さの実感に繋がり、いまの活動の原動力となっています。

今後の目標についてお聞かせください

「乳量〇t」という目標をたてることを中心に考えると、酪農ができる土地というのは人から離れたところになってしまいうことが多いのではないかと思います。私は「地域に酪農があることがうれしい」と思ってもらいたいと考えているので、乳量だけにこだわらず、地域農業として人に近いところで酪農の素晴らしさが伝えられるよう日々努力しています。そして酪農を地域に定着させ残していくために、地元嬉野から頑張っていこうと考えています。

就農に迷われている方へ一言お願いします！

酪農と聞いて何を思い浮かべますか？搾乳風景が浮かぶ方が多いかと思いますが、しかし、それだけではありません。特に酪農は自営業ですのでやり方次第でほかの農業よりも自由に活動できる恵まれた環境にあります。今あなたがやりたいと考えていることを酪農で実現できないで

しょうか。私は街づくりをしたくて建築家を目指していましたが、酪農家として、家を建てることは別の方法で街づくりに励んでいます。そして今は建築家になった自分よりも街づくりに繋がる仕事ができるのではと自負しております。

酪農は実は自由でふところの深い職業だと思います。仕組み作りや工夫次第で色々なことが出来ると思います。あなたが考えている夢も私がそうであったように酪農で実現できるかもしれません。

生き物を飼育して

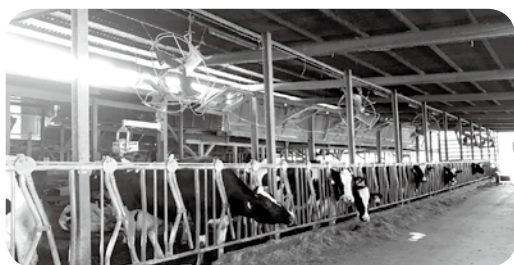
いる責任感からアニマルウェルフェアに興味があるという大貴さん、今後は土地に合う牛の飼いやWCS利用など将来の設計図はまだまだ拡がっているようです。

「嬉野市で『うれしい』を目指しているナカシマファームの益々の発展をお祈りいたします。

中島さんより

全国の若手後継者の皆さんへ一言！

同業者のみならず
いろんな人との出会いを大事に



▲ 搾乳牛舎



▲ 自作の倉庫



▲ カウコンフォートに配慮したブラシ

全酪連会報10月号の「総務部だより」でご紹介した改正「個人情報保護法」につきまして、「改正法」に関するガイドラインの公表が平成28年末、全面施行の目標時期は平成29年春とご案内いたしました。ガイドラインの公表が平成28年11月30日に行われるとともに、「改正法」が平成29年5月30日に全面施行されることが決定いたしました。

今回の改正法では、身体的特徴などが個人情報として明確化されたほか、「要配慮個人情報」（人種、信条、社会的身分、病歴、犯罪の経歴、犯罪により害を受けた事実等）が定められました。また改正法では、取り扱う個人情報の数が5,000件以下の事業者も「個人情報取扱事業者」に該当すること、第三者から個人データの提供を受ける際の確認や記録を作成する義務及び個人データを第三者に提供する際の記録を作成する義務が新設されたこと等に対応する必要があることに注意が必要です。

改正内容の概要につきましては全酪連会報10月号を、詳細につきましては公表されている「個人情報の保護に関する法律についてのガイドライン」（通則編）（第三者提供時の確認・記録義務編）等をご参照下さい。

【ガイドライン掲載場所】

個人情報保護委員会ホームページ

「改正法の施行準備について」からダウンロード可能です。

[\(http://www.ppc.go.jp/personal/preparation/\)](http://www.ppc.go.jp/personal/preparation/)

●改正法の全面施行までのタイムスケジュール

年 月 日	実 施 内 容
平成17年4月1日	「個人情報の保護に関する法律」（「現行法」）の全面施行
平成27年9月9日	「改正法」の公布
平成28年11月30日	「改正法」に関するガイドラインの公表
平成29年5月30日	「個人情報保護委員会」ホームページに記載されている、「改正法」の全面施行

改正「個人情報保護法」につきまして、
ガイドラインが平成28年11月30日に公表され、
平成29年5月30日に全面施行されることが決定されました



No.285
四日市市ふれあい牧場
三重県四日市市

▲ 場長の清水亮佑さん

「育成牧場として、観光牧場として、 地域に愛される牧場」

地域の紹介

今回紹介する四日市市ふれあい牧場は、三重県四日市市にあります。四日市市は石油コンビナートとして全国的に有名ですが、農業ではかぶせ茶（お茶の一種）の生産が盛んで、海岸の工業地帯と異なり山側は自然豊かでお茶畑が広がっています。

四日市市ふれあい牧場は、三重県酪農業協同組合連合会（谷川原

◀ 四日市市ふれあい牧場入口



▲ 牛舎外観

◀ 四日市港の石油コンビナート



万欣代表理事会長）の会員である四日市酪農業協同組合（近藤貞和代表理事組合長）が出資する（有）四日市酪農が管理運営しています。

四日市市ふれあい牧場のあゆみ

四日市市ふれあい牧場は、昭和39年に四日市市の酪農振興を図るため、市直営の「四日市市乳牛育成場」として開設されました。昭和44年より四日市酪農業協同組合が運営を委託されるようになり、平成9年に「四日市市ふれあい牧場」に名称変更して現在に至っています。事業の主体は育成牧場で、現在、酪農家の預託牛が46頭います。育成牛は1〜2か月齢で上牧されて、分娩予定日の3か月ほど





◀ 預託牛



▶ 牛舎内部

前になると下牧されていきます。
そのほかに四日市市ふれあい牧場は、観光牧場としての一面も持っています。敷地内ではポニー・ヤギ・羊・ミニブタ・エミュー・うさぎ・モルモットも飼育しており、餌やり体験も出来るようになっていきます。



▲ 売店

また搾乳牛も飼育しています。現在、ジャージーの経産牛が13頭、育成牛が1頭います。四日市市ふれあい牧場の年間出荷乳量は42t（平成27年度）となっています。搾乳牛を使って観光客向けの搾乳体験や、バターづくり体験も行っており、酪農教育ファームの認証牧場にもなっています。
敷地内には観光客向けの売店もあり営業期間は4月～11月となっています。売店では(有)四日市酪農の乳業工場で製造している乳製品を販売しています。一番のおすすめ商品はミルクソフトクリームとなっています。
観光客は、昨年1年間で6万人



▲ 処理室



▼ パーラー

ほど来たそうです。特に、春と秋は来場者が多いそうです。地元や名古屋からだけでなく、岐阜、大阪、奈良、鳥根からのお客様もいるとのこと。

四日市市ふれあい牧場の作業

現在、四日市市ふれあい牧場は、



▼ 粗飼料倉庫



▲ 配合飼料タンク

清水亮佑場長含め3名で管理しています。3名は全員がすべての動物の管理をこなせるようにしています。このほかに期間限定で1名、売店の店員がいます。

牛の飼料ですが、自給飼料は作っておらず全量購入しています。四日市酪農協同組合は非遺伝子組み換え飼料で飼育した乳牛から搾った牛乳の販売に取り組ん



▲ ジャージーの経産牛

しており、四日市市ふれあい牧場も非遺伝子組み換え配合飼料を給与しています。配合飼料のほかチモシー、アルファを分離給与しています。

預託牛同様、ジャージーも日中は専用の運動場で運動させています。しかし、取材当日は、数日前の降雪により、四日市市ではとてもめずらしい数十センチの積雪となったため、残念ながら運動場へ行けない状態となっていました。

繁殖・診療は地元の動物病院の獣医師さんをお願いしています。

ての動物を診てもらっています。

ジャージーは自家育成です。現在、育成牛は1頭ですが、そのほかに妊娠中の経産牛が3頭いるとのこと。ジャージーたちは観光客向けでもあるので、1頭ごとに名前がついています。そのため四日市市ふれあい牧場では、それぞれの牛たちをなるべく更新せずに長生きさせるように管理しています。現在、最高齢は12歳、平均産次は4〜5産ほどのことです。

愛情一杯で飼育しているため、預託牛も含め牛達の繁殖成績は良好とのこと。

堆肥は牛舎隣りの堆肥舎でモミガラを加えて1か月ほど切り返しを行った後、離れた場所にある攪拌式堆肥舎で完熟にして販売します。価格は、「2tダンブによる配送」1車分3,000円、「軽トラックへの積み込み」1車分1,000円、「袋詰め」1袋100円、です。完熟堆肥は人気が高く、完全予約制で、現在ダンブ100台分の予約が入っており足りない状態です。堆肥はおもに家庭菜園や、近隣の農業団地へ納品しています。

最後に



▲ 堆肥舎

清水場長に、四日市市ふれあい牧場のこれからについてお話しを伺ったところ、「育成牧場として預託牛を受胎させて満足してもらえる牛を酪農家に返していきたい」、また「地域に愛される観光牧場でありたい」とのことでした。

現在、搾乳体験、バターづくりのほかにもイベントを検討中とのこと。また近隣にある他の四日市市の施設とコラボして地域イベントにも取り組んでいます。毎年春に、他の施設と合同で「春のワクワクふれあいまつり」を開催しており、今年も開催予定とのことでした。

取材当日は施設も周りのお茶畑も積雪で真っ白でした。除雪作業でお忙しい中、快く取材にご協力いただいた清水場長ほか従業員みなさま、ありがとうございました。

地元出身の清水場長も、子供のころ四日市市ふれあい牧場に遊びに来ていたそうです。これからも、育成牧場として、観光牧場として、地域に愛される牧場でありつづけてほしいと願いつつ取材を終えました。



▲ 小動物ふれあい広場と、遠くに見える石油コンビナート

名古屋
支所発

酪農生産研究会 「平成28年度第2回会員職員研修会」開催

1月18日(水)に酪農生産研究会（田上政治会長）の今年度第2回研修会が全酪連名古屋支所会議室において開催されました。

参加者は総勢18名でした。

今回は「オーストラリア情勢報告について」と題して、全酪連購買部 澤口新哉副審査役を講師に招き、オーツヘイのニュークロップについての報告会を行いました。



▲ 澤口副審査役による情勢報告

はじめに澤口副審査役よりパワーポイントを使った情勢報告のあったあと、会場にオーツヘイのサンプルを展示し、全員で目合わせを行いました。

参加者は講師の説明を聞きながら、オーツヘイのサンプルを手にとって、今年の傾向を確認し、意見交換を行いました。

(Y.K)



▲ オーツヘイの目合わせ

大阪
支所発

兵庫県酪農協が「搾乳ロボットの プレゼンテーション会」を開催

去る1月20日(金)、兵庫県酪農農業協同組合（丸尾建城代表理事組合長）は、西日本の搾乳ロボット取扱い業者4社によるプレゼンテーション会を神戸市西区の西神文化センター大ホールで開催しました。

労働力の確保が課題となるなか、県下の酪農家36名と関係者を含め74名が参加しました。

プレゼンテーションは、(株)コーンズ・エージー（アストロノート）、デラバル(株)（VMS）、西日本オリオン(株)（エムアイワン）、(株)本多製作所（ギャラクシー）の4社によりそれぞれのシステムやその特徴等についての説明が行われました。近畿・中国・四国での組合主催による4社揃っての開催は初めてということで各社とも力の入ったものとなりました。

参加者は、畜産クラスター関連事業等を踏まえ規模拡大を目指している酪農家や最新の搾乳ロボットの情報を知りたい酪農家及び県や関係機関の関係者ということもあり、聞き逃さないようにと真剣に聞き入っておられました。また、その後の質疑応答においても4社それぞれ活発に交わされました。

ロボットが人間に代わり搾乳する、また、そのことが生乳生産基盤の維持拡大の一翼を担うという時代がすぐそこまで来ているようです。

(N.K)



▲ プレゼン会場

福岡
支所発

「らくのうマザーズ家畜市場搾乳素牛セール」 開催される！

今年最初のらくのうマザーズ家畜市場搾乳素牛セールが1月20日(金)にJA熊本市畜産センターで開催されました。

当日は初せりに先立ち、らくのうマザーズ限部長より「酪農家の方々に安定的に素牛を供給しようとして始まったらくのうマザーズ家畜市場は、年間1,600頭以上集畜しており、都府県では最大の市場となりましたことに感謝申し上げます。現在、価格は非常に高騰しており



▲ 隈部 洋 代表理事会長

ますが、預託事業を活用しながら、育成できるところはしっかり育成して、酪農経営を継続して頂きたい。県内外から購買者が来ておられるし、出品もされており、また、JA熊本市からこの市場を貸して頂きまして、最良の市場開催が実施できています。今後も皆様に安定的な素牛が供給できるよう、ご協力頂きたい。」と挨拶があり多くの購買者が集まるなか、活気あるせりが行われました。

今回は、出品頭数139頭のうち136頭が成立しました(育成牛10頭、初妊牛58頭、経産牛68頭)。特に初妊牛の平均販売価格は870千円(税抜)で、過去最高の平均価格を記録した前月より7千円の値上がりでした。また、育成牛の平均販売価格は416千円(税抜)で前月より24千円の値上がり、経産牛の平均販売価格は456千円(税抜)で前月より124千円の値下がりでした。

(熊本県酪農業協同組合連合会 K.K)



▲ 初せりの様子

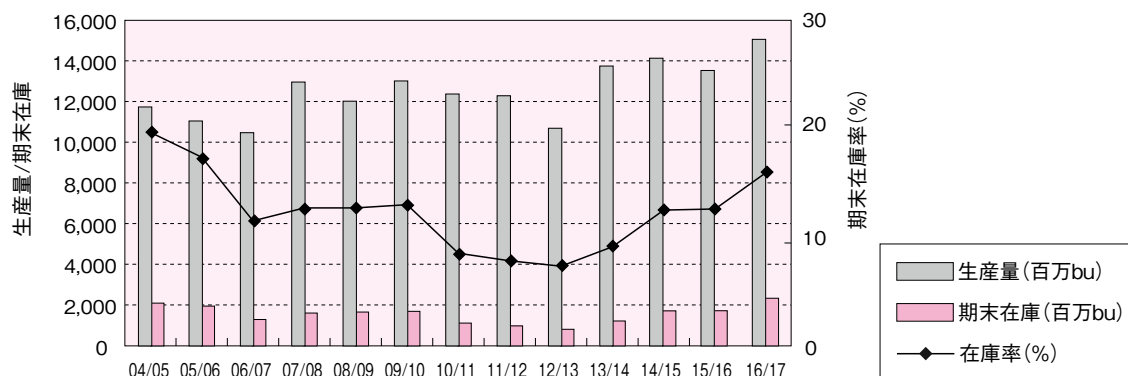


原料情勢

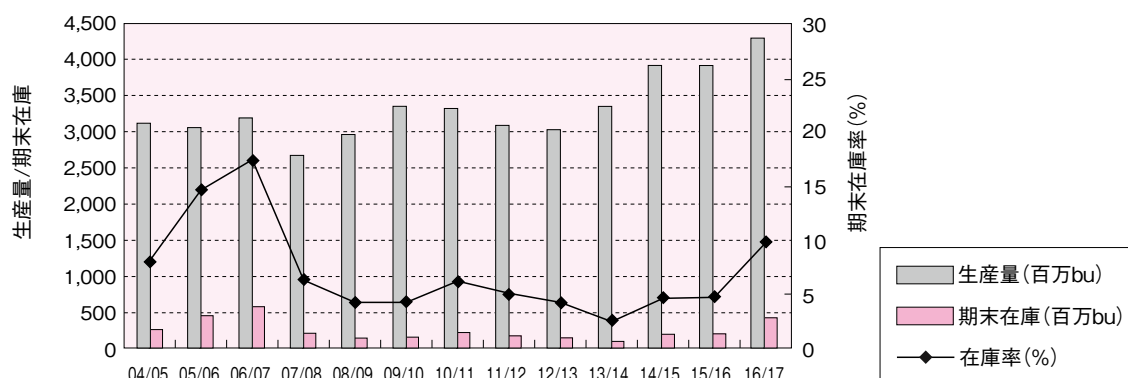
平成29年1月

1月12日発表 米国農務省 トウモロコシ 需給予想	【15/16年産】 作付面積88.0百万エーカー、単収168.4bu/エーカー、生産量136億200万bu、総需要量136億6,400万bu、期末在庫17億3,700万bu、在庫率12.7% 需供給面で増加。期末在庫は減少。
	【16/17年産】 作付面積94.0百万エーカー、単収174.6bu/エーカー、生産量151億4,800万bu、総需要量145億8,500万bu、期末在庫23億5,500万bu、在庫率16.1% 需給両面で減少。期末在庫は減少。
トウモロコシ 相場動向	南米での悪天候による作付け遅延懸念や大豆・小麦につられて上昇。16/17年産のトウモロコシ生産量は確定し、今後は需要動向に注目が集まる段階へと移っていく。今後の見通しでは、飼料需要の下方修正とエタノール需要の上方修正が想定されるが、期末在庫率は現状の16%から大きく上下することはなさそうである。
1月12日発表 米国農務省 大豆需給予想	【16/17年産】 作付面積83.4百万エーカー、単収52.1bu/エーカー、生産量43億7万bu、総需要量41億8万bu、期末在庫4億2,000万bu、在庫率10.2% 供給面が減少。
大豆相場動向	米国産は供給面が減少。期末在庫は前月対比60百万bu減少の420百万bu。当日相場は、生産量見通しが市場予想を大きく下回ったため、投機筋による調整の買いが集中し、大きく値上げ 前日比+29¢の1,032¢（1月限）で取引終了。国内産は安定して推移しているが原料大豆価格、為替の影響を受け強含んでいる。シカゴ相場は堅調に推移。引続き米国産は中国からの需要が旺盛となっている。南米ではブラジルにおいて作付けが早めに終了したため、収穫も早まる見込み。作柄も順調との情報が入っており、今後は南米の生産状況が鍵となる。
糖種類	【一般フスマ】 今期据置。他糖種類原料が値上げとなっていることから需要は徐々に増加するものと思われる。製粉メーカーでの挽砕は順調に推移しているものの需給は引き締まる見込み。相場はやや強含むものと予想される。
	【グルテンフィード】 値上げとなった影響を受け、飼料向け需要は若干減少傾向。輸入品は中心となる中国でDDGS輸入制限の影響から、代替品として中国・国内でのグルテンフィード需要が旺盛。価格は堅調に推移、日本向け輸入数量は減少するものと思われる。総じて需給は引き締まり相場は強含むものと思われる。
海上運賃	中国向けの鉄鉱石需要が盛り上がり、ケーブサイズ型が大きく上伸し、それを受けパナマックス型も堅調に推移している。米国では悪天候により穀物の積み出しが遅延。特に米国西海岸の積出港ではかつてない程の滞船が発生中。1月に積む予定だったものが2月にずれ込んでいる状況。日本向け本船の入港遅延も懸念。

米国産トウモロコシ生産量と期末在庫の推移



米国産大豆生産量と期末在庫の推移



輸入粗飼料の情勢

平成29年1月

北米コンテナ船 フレート	海上運賃一斉値上げ（GRI）は昨年10月からほぼ毎月のように通知されていますが、年明けからも1月1日、1月15日、2月1日付等、各船社さらなる値上げを打診してきています。各船社のGRIの動向は引き続き注視していく必要があります。
ビートパルプ	【米国産】新穀の作付けは例年アイダホ州やミシガン州など早い地域では3月末、日本向け主力のミネソタ州やノースダコタ州では4月中旬頃からスタートします。今のところビートの作付面積に大きな変動をもたらす要因は見当たりませんが、トランプ政権発足後の砂糖業界を含めた農業政策への動きが注目されるところです。
アルファルファ	【ワシントン州】産地在庫は、高成分の上級品については限定的で中級品から低級品が中心となっています。サプライヤーが未契約の生産農家側の在庫もありますが、保管状況が良好とは言えないものも多いようです。米国の乳価もやや回復基調ということもあり、国内の荷動きも以前に比べ活発になりつつあるようです。
	【オレゴン州】中部クリスマスバレーでは、高成分の上級品の在庫はあるものの高値で取り引きされています。一部のサプライヤーやカリフォルニア州中心の国内酪農家の買いが入っているようです。南部クラマスフォールズでは、高成分の上級品の在庫は限定的です。このため、価格も高止まっており旺盛な需要の中国向けであっても買い切れない状況とのこととです。
	【カリフォルニア州】日本向け以外の荷動きは順調で、上級品から低級品まで在庫は薄くなっている状況です。州内全体の在庫が少ないことから、一部の州内需要向けに州外への買付けも始まる可能性が出てきました。州内の酪農家のアルファルファの1頭当たりの使用量は2009年以降漸減しているものの、州内全域のアルファルファの在庫量は昨年比で大幅に減っているとの見解も出て来ています。
チモシー	【米国産】2016年産の生産は終了しており、1番刈・2番刈ともに、上級品だけではなく中級品の現地在庫は完売の状態です。今後追加が可能なグレードは中級品以下が主力になってくると思われます。旺盛な需要と産地在庫の不足感から価格は非常に堅調で産地からの値上げ圧力が日に日に増している状況です。
	【カナダ産】2016年の中部クレモナ地域では過去数年の中で最も悪い作柄であったため、上級品並びに中級品はほぼ完売しています。南部レスブリッジ地域もクレモナ地域に比べると天候は良かったものの、上級品は既に完売となっています。
スーダングラス	チモシーの上級品や中級品の産地在庫の不足や豪州産オーツヘイの上級品が特に南豪州と東豪州で不足していることから、スーダンの追加購入の引き合いが増えているようです。16年産の生産量は15年産に比べ少なく、産地在庫も上級品は限定的なことと、これらの追加需要に対応できる数量も限られてくると思われます。
クレイングラス	クレインは全酪連の登録商標です。 需要は引き続き堅調で、1月以降も産地からの船積みは安定していくものと思われます。日本向けも堅調に推移していますが、韓国が自給飼料不足の状況で、その代替品としてクレイングラスを利用し始めており、輸入量も増加しています。現地の在庫は、ほぼ完売のサプライヤーもありますが、通常品より品質が劣るものは一部余剰があるようです。
ストロー類	韓国からの強力な引き合いによる需要増と雨あたり品が多く発生し良品に限られる作柄、さらには過去2年にわたる相場の低迷による生産量の減少により、産地在庫は限られているようです。このため、生産農家も強気で売り手市場へと一変しており価格も上昇しています。また、現地の荒天や空コンテナも不足、加えて本船のスペースも少なく、デリバリー全般を見ても非常に厳しい状況が続いており、日本側の品薄に拍車を掛けている状況です。価格の高騰と不安定なデリバリーは今後もしばらく続く見込みです。
オーツヘイ	【西豪州】今年の収穫は全て終了しました。既報の通り、生育期には適度な降雨もあり順調に生育しましたが、生育後期から収穫期にかけ降雨が続いたため刈り取りが遅れた地域もあり、収量は多めで、品質も上級品から低級品まで様々なグレードが出来ています。成分もバラつきがあり、総じて早魃傾向だった昨年に比べると、やや劣るものが多いようです。また他の産地に上級品に限られているため、西豪州への発注が集中する傾向が出てくるものと思われます。
	【南豪州】南豪州でも今年の収穫は終了しました。今年の品質は一部地域では、収穫前の大雨による倒伏や浸水の被害が生じ、また、全体を通して降雨が多かったことから、上級品の発生は昨年と異なり限られた数量になっています。この地域からは、上級品が手配できないサプライヤーが多くの低級品を出荷していくことが予想されます。
	【東豪州】東豪州では、断続的な降雨により、例年よりかなり収穫スケジュールが遅れており、クリスマス前まで収穫を行っていた地域もあるようです。このため上級品はごく一部の限られた数量のみの発生となっています。単収は多雨の影響でここ数年にないほど多くなっており、今年の東豪州産は低級品が中心になりそうです。本邦への船積みについては、サプライヤー側の生産能力を超えた受注に加え、本船の航路やスペースの問題も出てきています。現在、西豪州から日本への直行航路はなく、すべて東南アジアでの経由・乗換えを行っています。東南アジアから日本への船の多くはサイズが小さく積載量も少ないため、乗換えの船に積みえないという事案が多く発生しています。産地の生産能力および受注状況と本船スケジュールの問題から、特に西豪州産品は遅延が多発し、タイムリーなデリバリーが難しい状況になっています。

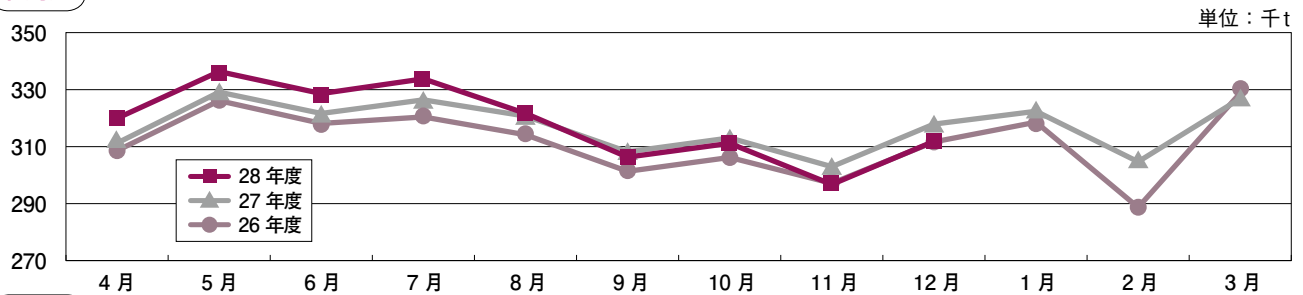
生乳受託販売乳量

受託販売乳量

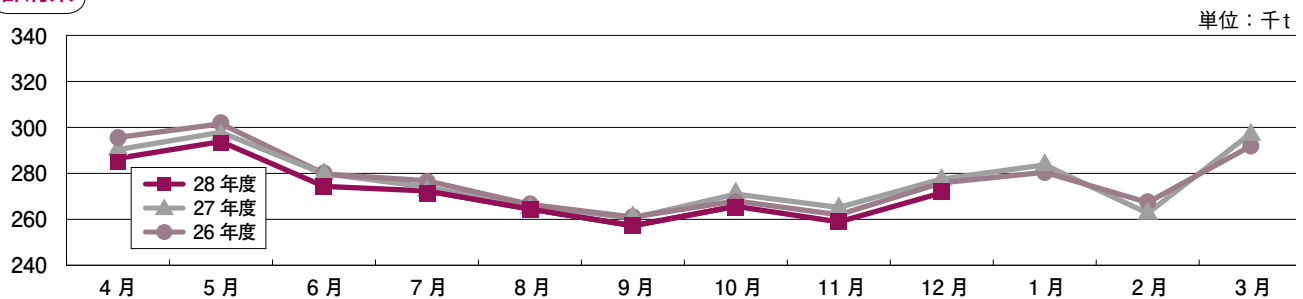
全国 **583,401t** で、前年同月比 **10,410t(1.8%) 減少**
 北海道 **311,861t** で、前年同月比 **6,050t(1.9%) 減少**

都府県 **271,540t** で、前年同月比 **4,360t(1.6%) 減少**

北海道



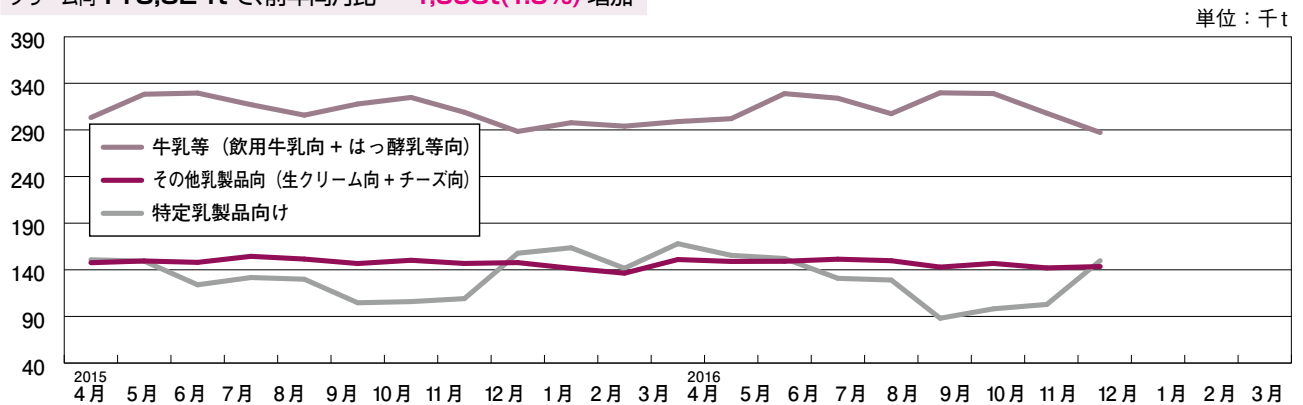
都府県



用途別販売数量

飲用向 **253,050t** で、前年同月比 **754t(0.3%) 減少**
 はっ酵乳向 **35,135t** で、前年同月比 **616t(1.8%) 増加**
 クリーム向 **113,824t** で、前年同月比 **1,098t(1.0%) 増加**

チーズ向 **30,624t** で、前年同月比 **4,370t(12.5%) 減少**
 特定乳製品向 **150,767t** で、前年同月比 **6,999t(4.4%) 減少**



各地の需給動向

【東北】生産は、前年比 97.9%。乳業者の処理は堅調に推移。飲用牛乳向けは 99.0%、はっ酵乳等向け 102.5%、特定乳製品向けは 89.2%となった。

【関東】生産は、前年比 99.2%。乳業者処理は中旬まで計画通りに推移し、学乳休止後も好調を維持した。飲用牛乳向けは 98.9%、はっ酵乳等向け 99.5%、特定乳製品向け 100.5%。

【東海】生産は、前年比 99.4%。日量は旬毎に回復傾向。乳業者処理は東日本と同様の傾向で、下旬も好調を維持した。飲用牛乳向け 100.6%、はっ酵乳等向け 102.3%、特定乳製品向けは 81.4%。

【近畿、中国、四国】生産は、近畿 97.5%。中国は 99.0%もメガファームが前年超えており牽引、四国は 100.6%となった。乳業者処理は各社計画を上回ったとで逼迫感が生じた。飲用牛乳向けは近畿 96.9%、中国 101.7%、四国 103.4%。

【九州】生産は、前年比 97.0%。当初見込み通りとなったが、上、中旬は下回って推移していた。乳業者処理は、処理計画を上回って推移、下旬は逼迫度合が強かった。飲用牛乳向け 94.9%、はっ酵乳等向けは 106.3%、特定乳製品向けは 98.7%。

用途別生乳処理量

単位：千t

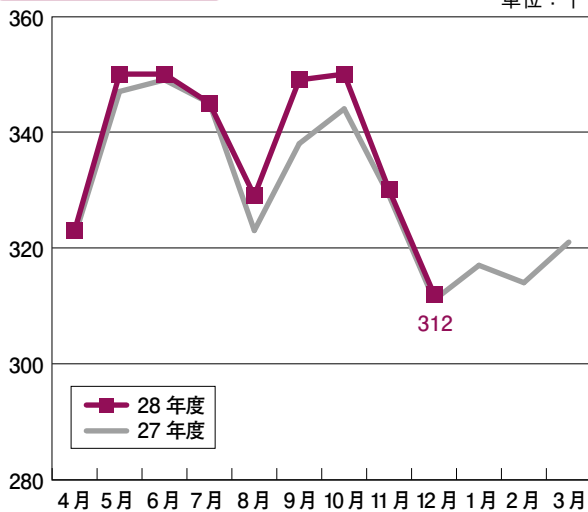
年月	生乳生産量	用途別処理量計							年月	生乳生産量	用途別処理量計						
				乳製品向										乳製品向			
					特 定 乳製品向 ②	その他乳製品向									特 定 乳製品向 ②	その他乳製品向	
						牛乳等向 ①	クリーム向 ③									チーズ向 ④	牛乳等向 ①
2015. 4月	625	620	322	298	148	150	114	37	2016. 4月	633	626	323	303	157	145	108	37
5月	649	644	347	297	151	146	109	37	5月	653	649	350	299	152	147	108	39
6月	625	620	349	271	126	145	107	38	6月	626	622	350	272	128	143	105	38
7月	629	624	338	286	133	153	110	43	7月	631	627	345	282	132	150	111	39
8月	608	604	323	281	133	148	107	41	8月	610	606	329	277	130	147	108	40
9月	593	588	338	250	107	143	107	36	9月	586	581	349	232	90	142	107	35
10月	603	599	344	255	107	148	111	37	10月	600	596	350	246	101	144	109	36
11月	588	584	329	255	110	146	110	36	11月	579	576	330	246	105	141	110	31
12月	620	616	311	304	158	147	109	37	12月	610	606	312	294	153	141	109	32
2016. 1月	627	623	317	305	165	140	101	39	2017. 1月								
2月	595	591	314	277	142	135	100	35	2月								
3月	644	639	321	318	170	148	109	39	3月								
年度計	7,407	7,352	3,953	3,398	1,649	1,749	1,295	455	年度計	5,530	5,489	3,040	2,449	1,148	1,301	974	327

資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」

単位：千t未満を四捨五入した数値を標記しているため、各項目の合計と表の合計とが合致しない場合がある

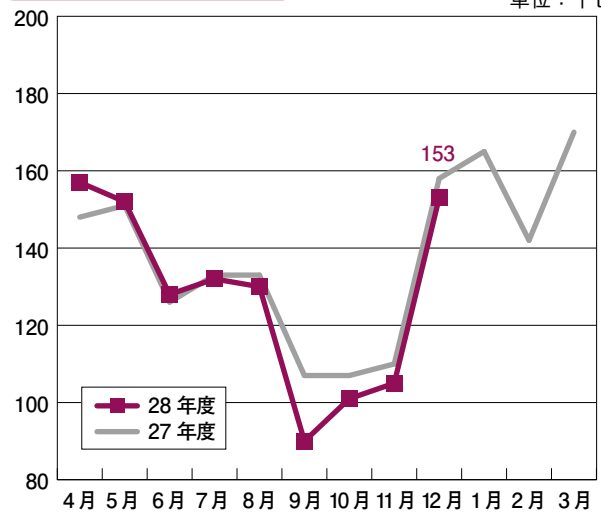
① 牛乳等向処理量

単位：千t



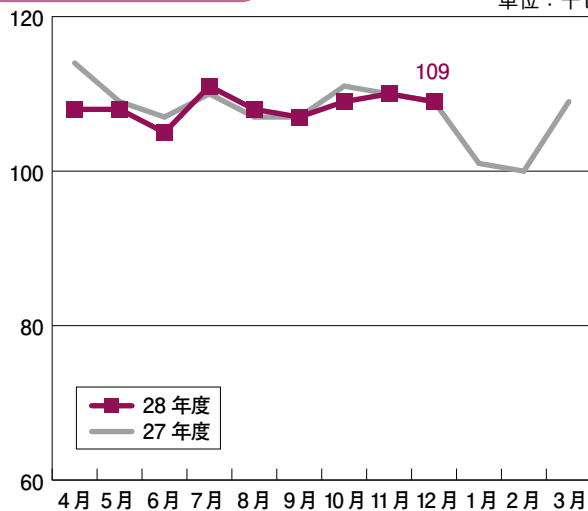
② 特定乳製品向処理量

単位：千t



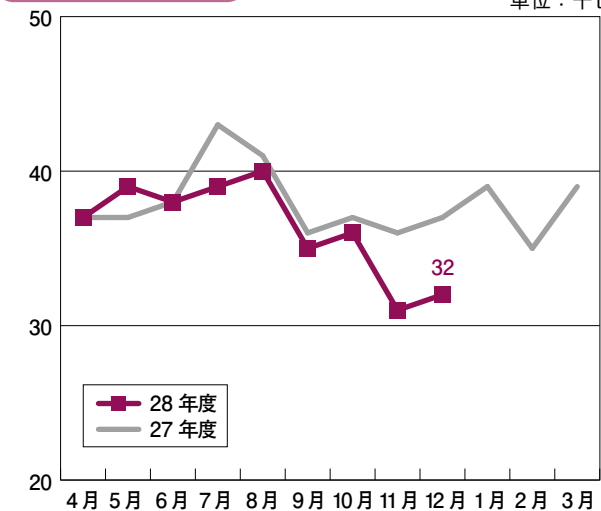
③ クリーム向処理量

単位：千t



④ チーズ向処理量

単位：千t



人事異動

新	旧	氏名
■平成29年2月1日付異動発令 福岡支所 南九州事務所長 福岡支所 酪農課長代理	札幌支所 帯広事務所長 福岡支所 南九州事務所長代理	須藤 大吾 長谷川 和典
■平成29年2月1日付兼務発令 福岡支所 酪農課長 兼 指導組織課長	福岡支所 酪農課長	町田 篤史
■平成29年2月1日付昇進発令 総務部 総務・広報課長 札幌支所 次長 兼 購買推進課長 兼 釧路事務所長 札幌支所 帯広事務所長 東京支所 栃木駐在員事務所長 名古屋支所 次長 兼 購買畜産課長 大阪支所 近畿駐在員事務所長 北福岡工場 総務課長	総務部 総務・広報課長代理 札幌支所 購買推進課長 兼 釧路事務所長 札幌支所 帯広事務所長代理 東京支所 栃木駐在員事務所長代理 名古屋支所 購買畜産課長 大阪支所 近畿駐在員事務所長代理 北福岡工場 総務課長代理	中村 宏行 矢口 正史 佐々木 俊介 渡辺 恵一 伊尾 陽 蔦谷 晃 千葉 敦之

平成29年

「各地域酪農青年女性会議 酪農発表大会」 開催のご案内

発表大会	開催日	開催場所
第45回北海道酪農青年女性会議酪農発表大会	3月28日(火)	北海道「京王プラザホテル札幌」 〒060-0005 北海道札幌市中央区北5条西7丁目2-1 Tel:011-271-0111
第46回東北酪農青年女性会議酪農発表大会	3月21日(火)~ 22日(水)	秋田県「ホテル鹿角」 〒018-5421 秋田県鹿角市十和田大湯字中谷地5-1 Tel:0186-37-4111
第46回関東甲信越酪農青年女性会議酪農発表大会	3月22日(水)~ 23日(木)	群馬県「ホテル天坊」 〒377-0195 群馬県渋川市伊香保町396-20 Tel:0279-72-3880
第46回中部酪農青年女性酪農発表大会	3月16日(木)~ 17日(金)	石川県「ゆのくに天祥」 〒922-0298 石川県加賀市山代温泉19-49-1 Tel:0761-77-1234
第48回西日本酪農青年女性会議酪農発表大会	4月20日(木)~ 21日(金)	山口県「ユウベルホテル松政」 〒753-0056 山口県山口市湯田温泉3丁目5-8 Tel:083-922-2000
第46回九州酪農青年女性会議酪農発表大会	4月11日(火)~ 12日(水)	宮崎県「シーガイアコンベンションセンター」 〒900-0036 宮崎県宮崎市山崎町浜山 Tel:0985-21-1111

お申込み・お問い合わせは、最寄りの全酪連支所まで

北海道 乳牛産地情報

平成29年2月1日現在

札幌支所 TEL 011-241-0765
 釧路事務所 TEL 0154-52-1232
 帯広事務所 TEL 0155-37-6051
 道北事務所 TEL 01654-2-2368

価格状況 ▲……強含み ▼……やや強含み →……横這い ⇩……やや弱含み ↓……弱含み

事務所	畜種	相場(万円)	価格状況	管内状況
札幌管内	育成牛(10-12月令)	50~55	▲	札幌管内の1月中旬までの生乳生産量前年比は、函館管内月計92.2%、累計で95.8%、苫小牧管内月計で95.4%、累計で96.7%の実績となっております。 2月の初妊牛動向といたしまして、5~6月分娩中心となるものと思われます。価格としましては需要の多い春産みを中心となり、また北海道全域において高値が続いていることもあり、この管内でも初妊牛の相場は値上がりするものと思われます。
	初妊牛	85~95	▲	
	経産牛	50~55	→	
釧路管内	育成牛(10-12月令)	55~65	▲	根釧管内の1月中旬までの生乳生産量前年比は、釧路管内月計で97.1%、累計で100.6%、中標津管内月計で99.0%、累計で100.5%の実績となっております。 2月の初妊牛動向といたしまして、4~5月分娩牛が中心となります。需要の多い春産みが動く事、大型牧場の導入が引き続き継続される見込みである事などから、これまでの流れが続き相場は強含みで推移するものと思われます。また、育成牛についても初妊牛の高騰が続いている事や資源不足もあり、初妊牛同様、相場は強含みで動くものと思われます。
	初妊牛	90~100	▲	
	経産牛	55~65	→	
帯広管内	育成牛(10-12月令)	55~60	▲	帯広管内の1月中旬までの生乳生産量前年比は、帯広管内月計で98.4%、累計で101.5%の実績となっております。 2月の初妊牛動向といたしまして、4~5月分娩牛の荷動きが中心となります。育成牛価格の高値安定が長期間継続していること、大型農場の購買が多いこと、需要の多い春産みを中心となること等、価格が値上がりする要素が重なるため、引き続き初妊牛価格は高値維持するものと思われます。大型農場の購買は道内・道外問わず需要が多く、今後も長期的に続くものと見込まれ、初妊牛価格の底支えとなるものと思われます。
	初妊牛	90~105	▲	
	経産牛	55~65	→	
道北管内	育成牛(10-12月令)	55~60	▲	道北管内の1月中旬までの生乳生産量前年比は、稚内管内月計で99.4%、累計では101.0%で、北見管内では月計で98.3%、累計で99.7%の実績となっております。 2月の初妊牛動向は4月~5月分娩でF1腹中心となります。12月市場は全道的に需要増により高値を付けました。2月につきましても、資源が減少傾向にある事、春分娩の需要と道内外大型牧場の頭数確保による導入意欲が強い事などから価格高騰が予想されます。初妊牛の高騰により経産牛2~3産の需要も増加しており、価格も高値が予想されます。
	初妊牛	88~100	▲	
	経産牛	55~67	▲	
道内総括	育成牛(10-12月令)	55~60	▲	道内の1月中旬までの生乳生産量前年比は98.2%、累計で100.4%の実績となっております。 2月の初妊牛動向につきましては、4~5月分娩牛が中心となります。2月は需要の高い春産み分娩が出回る事、また今年度内の導入を希望する道内外の購買が見込まれる事などから、初妊牛価格は引き続き高値で推移するものと思われます。今後、購買の荷動きが活発になる為、購買予定がございましたら時間と価格の幅に余裕をもってご注文頂きますようお願い致します。
	初妊牛	90~100	▲	
	経産牛	55~65	→	

※上記相場は、血統登録牛(中クラス)の庭先選畜購買による予想相場です。庭先選畜購買のため、市場購買とは異なり、価格差が生じます。

今月の表紙

リラックスタイム

今月の表紙は、「第7回酪農いきいきフォトコンテスト」(第45回全国大会にて開催)で応募頂いた作品「リラックスタイム」(北海道 引頭玉枝氏 撮影)です。



▼3月中旬から各地域で酪農発表大会が開催されます。皆さんお誘い合わせの上、ぜひご参加ください。さいますよう、お願い致します。

▼会報に関するご意見・ご要望・投稿写真等があれば、以下のアドレスにメールをお願いいたします。

shidoukikaku@zenrakuren.or.jp

編集後記



平成29年2月10日発行(毎月1回10日発行)

ZENRAKUREN
MEMBER'S INFORMATION

全酪連会報 2月号 No.617

●編集・発行人 大森 一幸
 ●発行 全国酪農業協同組合連合会
 〒108-0014 東京都港区芝四丁目17番5号
 TEL 03-5931-8003
<http://www.zenrakuren.or.jp/>



今月の



入賞作品紹介

はじめての乳しぼり

会津若松市立日新小学校(東北)4年 伊藤 紅葉



今月の入賞作品は、会津若松市立日新小学校(東北)4年の伊藤 紅葉さんの作品です。
牛さんと酪農家さん、乳をしぼる人が画面にうまく配置できましたね。牛さんの恍惚とした表情もいいです。牛さんのからだの斑紋は絵具が厚塗りされ、特に白い部分は色が多く塗り加えられていて丁寧さを感じました。

※この作品は本会と全国酪農青年女性会議共催の「第43回らくのうこどもギャラリー」で全国674点の応募作品から入賞12点に選ばれたものです。

主催 全国酪農青年女性会議